

鳥羽離宮跡第79次調査現地説明会資料

1982年11月20日

- 1 遺跡名 鳥羽離宮跡
- 2 所在地 京都市伏見区竹田小屋ノ内町66-2及び67
- 3 調査面積 約1500㎡
- 4 調査期間 1982年9月16日～現在継続中
- 5 調査主体 財団法人京都市埋蔵文化財研究所
- 6 調査概要

近年、名神高速道路京都南インターチェンジ付近は再開発が急速に進展し、景観が著しく変化しつつある。このような開発に伴って発掘調査件数も増加してきている。

今回の発掘調査も、当地域における一連の開発によるものである。当調査区付近は、鳥羽離宮内の田中殿推定地域内に位置する。過去、調査地周辺で実施した調査では、金剛心院の九躰阿弥陀堂と推定される瓦葺建物跡、道路跡、雨落溝のめぐる礎石建物等が良好な状況で検出されている。

7 遺構

今回の調査で検出した鳥羽離宮関係の遺構は、建物跡3棟、庭園跡、性格不明の落ち込み等がある。

建物SB1・2とも基壇を有する建物である。SB1は東西棟である。基壇上面は削平されており、礎石等は検出できず、建物規模については不明である。建物基壇は粗い版築によって作られている。SB2とは異なり基壇土内には礫等を入れていない。

SB2は、基壇北辺部と東側に礎石の抜き取り穴が検出された礎石建物である。建物基壇は掘り込み地業によって構築され、基壇底部には拳大の礫を突堤状に積みあげている。

SB3は、SB2に取り付く南北方向の礎石建物である。

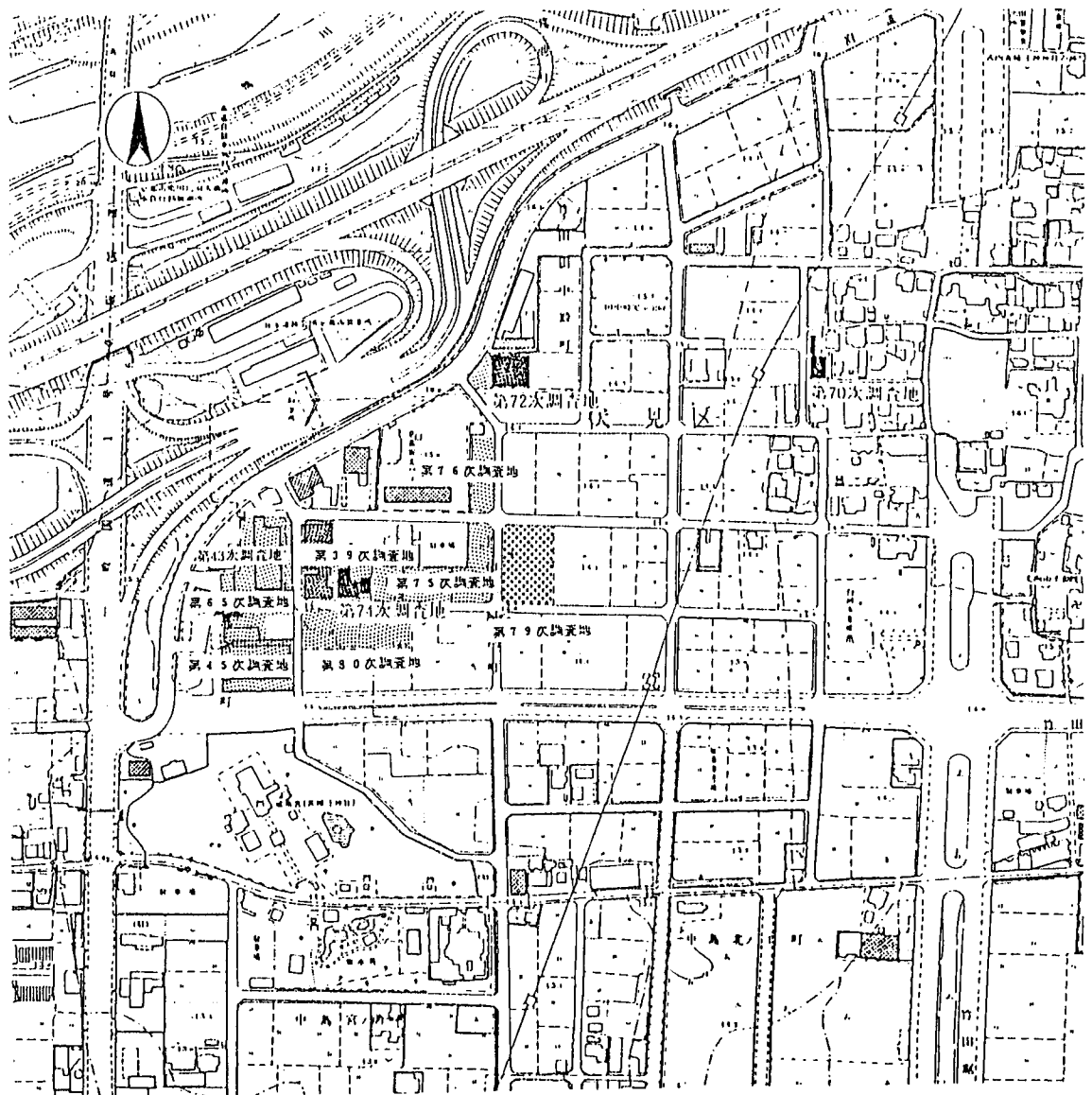
庭園SG4は建物群の東側に位置し、沢庭石を配している。池の水位は海拔13～13.5m前後と推定される。

SX 5は、不整形の掘り形を持つ落ち込みで、この中より多量の瓦や土器が出土している。

SD 6は、SB 3の西側で検出した南北方向の雨落溝で幅1.5mを計る。この雨落溝はSB 2, SB 3に伴うものと考えられる。

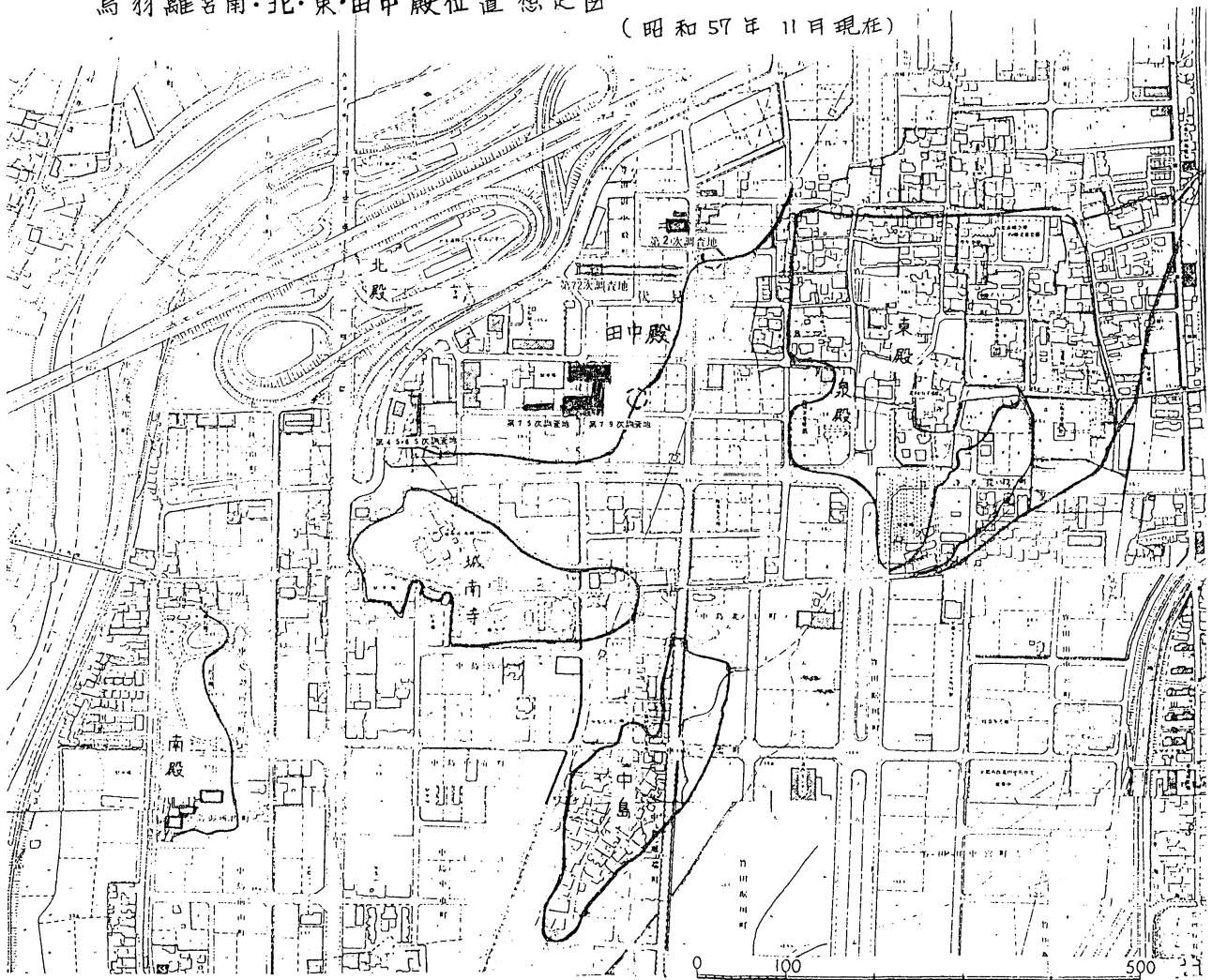
8 遺物

出土遺物の大半は瓦類で、他に土器、金属製品、土塔等がある。瓦には、軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦、鬼瓦等がある。土器の出土量は極めて少なく、いずれも小片である。土塔は4点出土しており、表面には緑釉が施されている。

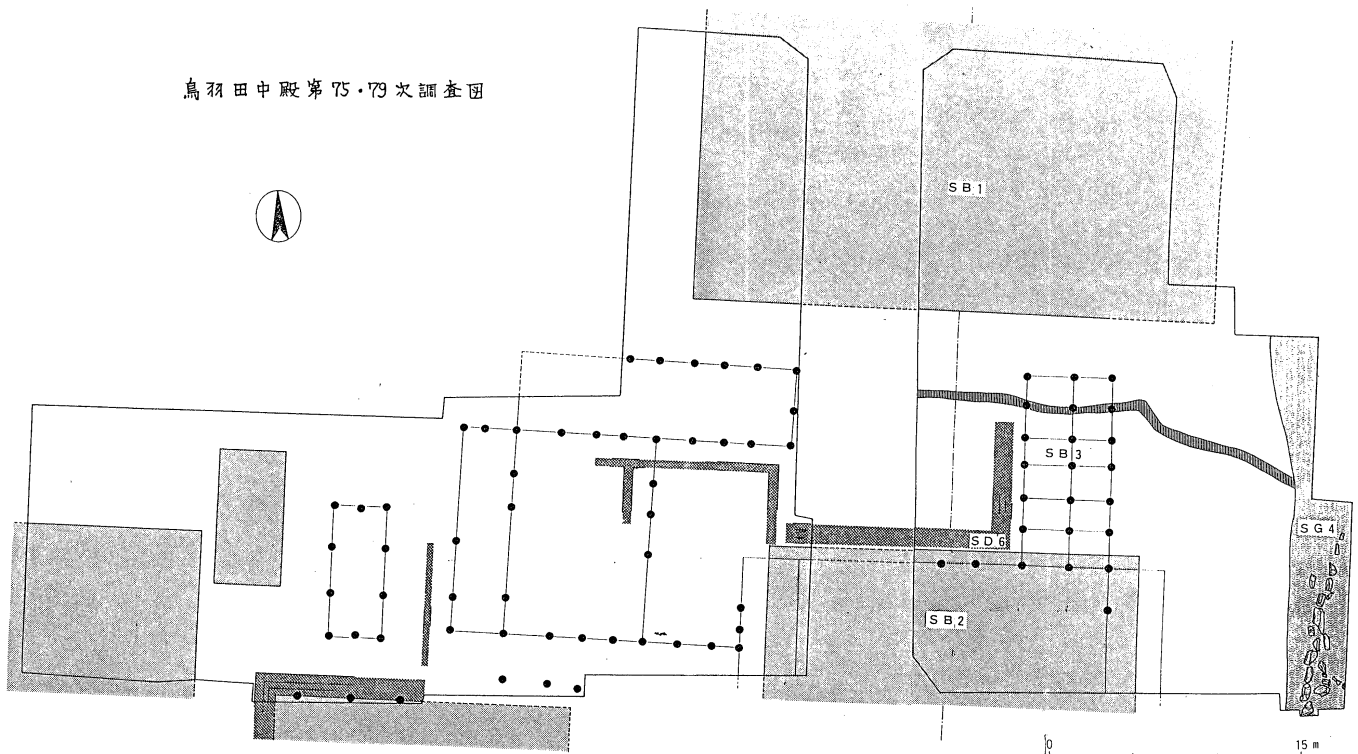


調査位置図 (1:5,000)

鳥羽離宮南・北・東・田中殿位置想定図 (昭和57年11月現在)



鳥羽田中殿第75・79次調査図



西 紀	年 号	天 皇 (法 皇)	事 項 (A) 鳥 羽 殿	事 項 (B) 六 勝 寺 其 他
1077	承 平 1	白 河	-	法勝寺供養
85	応 徳 3	"	藤原季嗣の鳥羽即位を以て、後院(鳥羽殿)の移 宮	
07	寛 治 1	堀 河 (白 河)	鳥羽即位	
88	2	"	" 北殿	
90	4	"	" 馬場殿	
92	6	"	" 京棟・東殿	
94	嘉 保 1	"		白河辺門大僧正房(京殿)を法島の御所とする
95	承 徳 2	"	尚院の屋舎を鳥羽北殿に移す	
1101	康 和 3	"	南殿・証金院院御堂供養	成勝寺供養・白河京殿(南殿)
02	4	"		
09	天 仁 2	鳥 羽	京殿・三永塔供養	
11	天 永 2	"	" 多宝塔供養	
15	元 永 1	"		成勝寺供養・白河北殿
29	大 治 4	崇 徳 (鳥 羽)		成勝寺供養
31	天 承 1	"	京殿・成徳院院御堂供養	
36	保 延 2	"	北殿・勝光明院院御堂供養	
37	3	"	東殿・安楽院院御堂供養	
39	5	"	安楽院院三重塔供養	成勝寺供養
47	久 安 3	近 衛	安楽院院九基阿彌陀堂供養	
54	久 寿 1	"	田中殿金剛心院院御堂・阿彌陀堂供養	
1155	久 寿 2	後 白 河	安楽院院不動堂・田中殿小御堂供養	
57	保 元 2	"	金剛心院院御堂供養	
58	3	二 条 (後 白 河)	安楽院院院御堂供養	(保元の乱)
59	平 治 1	"		(平治の乱)
61	応 保 1	"	北殿焼亡	法住寺殿
66	仁 安 1	六 条	北殿再建	
79	治 承 3	"	南殿修理・沼庭、法皇を鳥羽殿に遷す	
86	文 治 2	後 鳥 羽	南殿破損直し	
87	3	"	北殿修葺	
1201	建 仁 1	"	南・北殿修理	

